

TSURUOKA ROTARY CLUB

国際ロータリー第2800地区

鶴岡ロータリークラブ

平成19年2月5日(火) 第2395回(本年度第27回)例会

●創立 昭和34年6月9日

●例会日 毎週火曜日(12:30~13:30)

●例会場 東京第一ホテル鶴岡 鶴岡市錦町2-10

ROTARY SHARES
ロータリーは分かちあいの心例会に出席し
友情を深めよう

本日の卓話 (2/5)

歴代会長スピーチ

佐藤友行君

1月29日(第2394回)例会報告

点鐘

ロータリーソング「四つのテスト」

卓話: 御橋義諦君

ビジター:木村有為君・小池泰弘(鶴岡西RC)

会長報告

先週の寒だら例会は会津若松南RCの大勢の会員のご参加と会員の御家族も加わって盛大かつ楽しい会となりました。寒だらもおいしく、私としては大いに冬の味覚を満喫いたしました。お骨折りいただいたクラブ管理運営委員会の皆さんご苦労様でした。いろいろお世話をいただいた華夕美日本海の西川さんにお礼を申し上げます。

1/21、鶴岡産業会館で鶴岡4RC合同事務局会議が開かれ、当クラブからは本間昭吉幹事と秦直前幹事が参加しました。

1/24に鶴岡青年会議所の新年式典にクラブを代表して参加してまいりました。今年は当クラブの若生さんご子息で青年会議所の役員として活躍されていた若生順さんの突然のご逝去の後だけに、悲壮感あふれる悲しみ一色の雰囲気の中での式典でしたが、これに耐えながら未来にむかって進んで行こうという若い大勢の人たちの熱気がひしひしと感じられる会でもありました。

1/26に天童ホテルで開かれた地区広報ロータリー情報セミナーに青柳孝治さんに出席いただきました。猛烈な寒波の中の山越えご苦労様でした。

1/29にアクサンで行われた若生順さんのお通夜に参加しご冥福をお祈りし、クラブよりお預かりしたお悔やみと若生委員へのお見舞いを届けさせてい

次回の卓話 (2/12)

R I 規定休会

ただきました。葬儀の後、今年の夏の赤川花火大会を楽しみにしていた若生順さんのご冥福を祈って青年会議所の皆さん方が真っ暗な冬空に上げた花火は印象的でした。

今週はこの間ご承認を得た構成で50周年記念事業の準備を開始する第一歩として実行委員と来年度の会長、幹事を交えての会合を開きます。その後追々いろんな委員会を開いていきたいと思っています。皆様のご意見をお聞かせいただきながら事を進めていきたいと思っていますのでよろしくお願ひいたします。

ガビさんが鶴岡に来られてから今月で約半年です。ガビさんの留学に関する情報交換やこれからの方針についての4クラブ合同の会議が1月30日に開かれます。ガビさんはおかげさまで第3番目のホストファミリーにバトンタッチする時期にたどりつきました。

来年度の当クラブより地区委員会に参加されるメンバーが決まりました。次期会員増強会員維持委員会大委員長に佐藤孝子さん、研究グループ交換小委員会委員長に嶺岸禮三さん、青少年交換小委員会委員に富田喜美子さん、ローターアクト小委員会委員に本間喜美子さん、米山奨学委員会委員に加藤功さんです。ご活躍を期待いたします。

幹事報告

- 平成19年度職場体験のお礼訪問について
- 平成20年度天神祭協賛金部会(第1回)の資料送付
- 裁判員制度広報アニメーションビデオの送付について
- 平成20年度天神祭第2回企画委員会全体会議の

会長

島吉也

副会長

櫻松夫

幹事

本間昭吉

会報委員会

事務局

青柳孝治 佐々木竜彦 白幡憲一郎

鶴岡市馬場町11-63 産業会館3階

TEL:0235-28-3375 FAX:0235-28-3376

開催について

日時：2/6（水）会場：市役所 6F 締切：2/4

5. 国際ソロプチミスト鶴岡認証 20周年記念チャリ

ティー事業のチケットご協力のお願い

林家木久扇独演会

日時：3/25（火）午後 6 時開場 6 時 40 分開演

場所：鶴岡市文化会館

入場料：3,000 円（全席自由）

6. 第一ブロックガバナー補佐後任者について

丸藤雅毅君

7. 2月ロータリーレートについて

1 ドル = 108 円

卓話

雪の降るまちを

御橋義諦



昭和 27 年 3 月、斎村の菅原喜兵衛が新進作曲家中田喜直（当時 28 歳）、声楽家の村田節子、村田の妹でピアニストの村田克子を馬そりで鶴岡駅に出迎えた。中田が作曲した斎学園歌の発表会に出席するための来鶴だった。3 人は風もなく、空にきらめく星の間から落ちてくるふんわりとした雪を頬に受けながら、馬そりに揺られ喜兵衛の家に向かった。

菅原喜兵衛は幼い時から音楽好きで、将来は作曲家になりたいと思っていた。戦後の荒んだ時代に歌で人々の心を明るくしたいと「野良着樂団」を結成した。昭和 20 年の夏、姉の疎開先だった斎村を訪れた声楽家の村田節子と知り合い、彼女を伴って小中学校を回ったり、各地で音楽教室を開いた。そして、村田が橋渡しとなって、喜兵衛にとっては生涯の友となる中田喜直と出会う。

中田は昭和 24 年、NHK ラジオの連続放送劇「えり子とともに」の音楽を担当していた。人気を集めたこのドラマの原作者は内村直也。ドラマも終盤に近づいた昭和 27 年のある冬の日、台本にわずかな空白ができて、急遽歌を入れることになった。内村は、雪の降るまちを一人さびしく歩く自分自身を空想した詩を綴った。中田は詩を読んでらすらと作曲、イ短調からイ長調に転調する旋律によって、もの悲しさの中に希望と明るい未来を感じさせる叙情豊かな作品を完成させた。

歌が大ヒットすると「発祥の地はここ」というご当地論議が盛んに出てきた。諸説いろいろある中で、中田喜直令夫人中田幸子は、「雪国といえば鶴岡しか知らなかったですから、鶴岡の雪景色は

イメージにあったでしょうね」。中田は戦後間もない鶴岡を訪れた時のことをこう語っている。「50 年も前のことだが良く覚えている。おいしいご飯、囲炉裏の周りの串に刺した焼き魚、あんころ餅など一生忘れられない思い出だ。私にとってやっぱり鶴岡が一番懐かしく、親しい雪の降るまちである。」御橋義諦鶴岡冬まつり実行委員長は「中田先生と私は大のタバコ嫌いで煙草の仲。タクシーに乗るときに通常のビップ席ではなく、必ず左の座席に座られるので、そのことをお聞きすると、『戦時中、爆撃機の機長として訓練していた。機長席は左と決まっている。だからここが一番落ち着くんです』と言われて納得しました。亡くなる直前の二月の鶴岡音楽祭に来て下さったときは、歩くのもやっとという感じでしたが、本番では凛としたピアノを弾かれ、指揮もされました。プロの生きざまを垣間見た思いでした。」と思い出を語った。（月刊「茶の間」2005 年 2 月号より。敬称略）

退会あいさつ

白幡憲一郎



平成 11 年に入会して 9 年と 5 ヶ月、ロータリークラブの方にお世話をになりました。この 9 年間、毎週皆様方のスピーチなどで、驚きや共感があり、勉強させていただきました。皆様のスピーチにはすばらしいものがありました。この場にいる事自体、私自身の人生にとって非常に大きな勉強をさせていただいた宝物と思っております。これから鶴岡ロータリークラブの益々のご発展を祈っております。大変お世話になりました。ありがとうございました。

委員会報告

出席委員会

●スマイル ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

石田 雄君 真島 吉也君 佐藤 孝子君
西川富美子君 白幡憲一郎君 塚原 初男君

出席委員会

●出席報告 (1/29) ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

会員数	出席	出席率	前々回 確定出席率
45 名	21 名	51.22%	76.19%

●メイクアップされた方

藤川 享胤君 加藤 恒介君 丸山 隆志君
真島 吉也君 嶺岸 禮三君 斎藤 昭君
佐々木咲彦君 佐藤 友行君 塚原 初男君